

2018年4月2日

【展覧会概要】

展覧会名：リニューアル記念Ⅱ 美を旅する ―静岡県立美術館のコレクションとともに―

主 催：公益財団法人上原美術館、静岡県立美術館

後 援：下田市教育委員会

会 期：2018年4月14日(土)～5月20日(日)

*会期中無休(2018年4月9日～4月13日は展示替えのため休館します)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会 場：上原美術館(仏教館・近代館) 展示室

入 館 料：一般1,000円、学生500円、高校生以下無料 *団体10名以上は1割引

そ の 他：展覧会関連企画として、静岡県立美術館との共同イベントを多数開催します。

*別紙参照

出品作品：46点(上原美術館27点、静岡県立美術館19点) *予定

お問い合わせ：公益財団法人 上原美術館 展覧会担当：土森智典(主任学芸員)

〒413-0715 静岡県下田市宇土金 341

Tel. 0558-28-1228 / Fax. 0558-28-1227

e-mail: info@uehara-museum.or.jp

【見どころ】

- ・上原美術館と静岡県立美術館が共同開催する「初めて」の展覧会です。
- ・伊豆・下田で、上原美術館と静岡県立美術館が「初めて」共同企画するイベントを多数開催します。
- ・5月19日、20日のイベントは下田市の「黒船祭」との協賛イベントです。
- ・5月4日のイベント「みんなで大きな黒い船を描こう！」は、モネ《ルーアンのセーヌ川》を黒船に見立てて描きます。完成作は黒船祭まで開国下田みなとの外壁に展示予定です。
- ・新緑が美しい伊豆・下田に、静岡が有する世界の名画・名品が集まります。
- ・上原美術館のテーマである「ジャンルを超えた美との出あい」が、さらにスケールアップして展開します。

【企画趣旨】

今回の展覧会は上原美術館と静岡県立美術館、双方のコレクションの特質に焦点を当てようという初めての試みです。

上原美術館は個人コレクションを出発点とした、穏やかで親しみやすい作品群が特徴です。一つひとつの作品には、それらを愛したコレクターのやさしいまなざしが垣間見えます。一方、静岡県立美術館のコレクションには、東西の風景、富士山、現代美術、ロダンなどをテーマに、多彩で質の高い作品が揃います。

今回の展覧会では、上原美術館の邸宅のような穏やかで上質な空間を活かして、両コレクションが織り成す「美」の世界を旅していただきたいと考えております。

伊豆を含む静岡の人々が自らの土地とそこにある名品を「再発見」していただくとともに、全国の方々に静岡の魅力を発信する機会になればと考えております。

【内容】

上原美術館ではリニューアル企画第 2 弾として、静岡県立美術館との合同企画展を開催します。

今回の美をめぐる旅は牛島憲之《雨明かる》が描かれた伊豆・下田からはじまります。伊豆の山を越えると《富士三保松原図屏風》に描かれた霊峰・富士を見ることができます。そして、富士山は遠くフランスで多くの画家を魅了しました。《雪中の家とコルサース山》を富士に見立てたモネをはじめ、ルノワール、ピサロ、ゴーギャン、ゴッホなど、多くの画家が日本の文化に影響を受けながら新しい風景を描き出しました。

また、美しいものは人々を内なる旅へと導いてくれます。須田国太郎《筆石村》、レンブラント《三本の木》は時代も場所も異なりますが、どこか時間と場所を超えて見るものを内なる世界へと導くようです。そうした旅への導きは平安時代の仏像から、モーリス・ロイス《ベス・アイン》の抽象絵画にも感じることができるでしょう。

伊豆の自然に囲まれた新しい上原美術館で、ジャンルを超えた美の世界への旅をお楽しみいただければ幸いです。

上原美術館ではリニューアル記念展の第2弾として、静岡県立美術館との合同企画展を開催します。

美しいものは人々を旅へといざないます。旅で出会うのは移りゆく景色、古くから愛される文化、そこに生きる人々。そして、それらを通じて旅する人は自らの内なる世界をめぐります。本展は伊豆の平安仏や富士の絵画など、伊豆・静岡ゆかりの美にはじまり、印象派などの風景画や、ジャンルを超えた内なる美の世界を、旅するようにご覧いただく展覧会です。

本展では上原美術館と静岡県立美術館、双方のコレクションが伊豆・下田に集まります。上原美術館は個人コレクションを出発点とした、穏やかで親しみやすい作品群が特徴です。一つひとつの作品には、それらを愛したコレクターの優しいまなざしが垣間見えます。一方、静岡県立美術館のコレクションには、東西の風景、富士山、現代美術、ロダンなどをテーマに、多彩で質の高い作品が揃います。それらのコレクションが出あうことで、ジャンルを超えた新しい美の世界が生まれます。今回の展覧会では、こうした美しい世界を旅するように巡っていただきたいと思います。

本展は当館の開館以来、初めて他の美術館と共同企画する展覧会です。いつもの上原美術館とは違った新しい雰囲気をお楽しみいただければと存じます。また、この展覧会に合わせて、静岡県立美術館との共同イベントも多数開催します。新緑が美しい伊豆への旅、そして両コレクションが織り成す「美」への旅をお楽しみいただければ幸いです。

それでは、ここから旅の一部をご紹介します。

第1部「旅のはじまり、伊豆」 仏教館

美をめぐる旅は伊豆からはじまります。はじめに、上原美術館に隣接する向陽寺に伝わった平安時代の阿弥陀如来坐像(上原美術館、以下UM、fig.1)が穏やかな佇まいで皆様をお迎えします。そうした柔らかな伊豆の空気は、下田を描いた牛島憲之《雨明かる》(UM)にも共通して見ることができます。大和絵や琳派の壮麗さを近代に甦らせた下田出身の画家・中村岳陵による屏風絵《牡鹿啼く》(静岡県立美術館、以下SM)は伊豆・天城の深い山々をも想起させます。

静岡といえば富士。古くより富士の仏として信仰された《大日如来坐像》(UM)には日本人の霊峰への思いを見ることができます。また《富士三保松原図屏風》(SM)や梅原龍三郎《富士》(UM)は、富士山がいかに日本人に愛されてきたかを教えてくれます。

国内で愛される一方、美しい山の姿は国外にも影響を与えます。浮世絵に登場する富士に魅せられたモネは、北欧の雪山を富士山に見立てて、《雪中の家とコルサース山》(UM)を描きました。伊豆、そして静岡の風景が世界へと繋がっていきます。

この展示室で大きな存在感を放つのが、アメリカ抽象表現主義の画家モーリス・ルイスによる《ベス・アイン》(SM、fig.2)です。横3メートルを超える大画面は、伊豆と静岡の風景の中にあって、時を超えた壮大な旅へ、見るものをいざないます。

第2部「はるかなる旅 印象派からゴーギャン、マティスへ」

近代館 第1展示室

ピサロ、モネ、ルノワール、シニャック、ゴーギャン。上原



fig.1 《阿弥陀如来坐像》平安時代
上原美術館寄託



fig.2 モーリス・ルイス《ベス・アイン》1958年
静岡県立美術館蔵

美術館と静岡県立美術館には印象派をはじめとする幾つもの美しい風景画があります。第1部で東西を繋いだモネの油彩画に続いて、モネ《ルーアンのセーヌ川》(SM)、《薫ぶき屋根の家》(UM)が近代館の展示室を飾ります。モネが自然をとらえる近代的なまなざしは、ルノワール《アルジャントウイユの橋》(UM, fig.3)をはじめ、シスレー、セザンヌらの絵画にも見ることができます。

上原美術館の特徴の一つに初期作品が多いことが挙げられます。ゴーギャンの最初期の油彩画《森の中、サン＝クルー》(UM)と、画家の代表作の一つ《家畜番の少女》(SM, fig.4)が並ぶ展示は、本展のみどころの一つです。さらにシニャック《アニエール、洗濯船》(UM)には19歳の画家による瑞々しい感性を見ることができます。続くマティス、マルケ、ボナール、ドランの華やかな風景は、見るものをはらかな旅にさそいます。

そして、クールベ《ピュイ・ノワールの溪流》(SM)における力強い自然描写は、上原コレクションでは見るることができない、風景表現の多様性を知ることができます。展示室中央には、風景を巡る旅を楽しむようにロダン《永遠の休息の精》のトルソ(SM, fig.5)が佇みます。

第3部「内なる世界へ」 近代館 第2、3展示室

上原コレクションの特徴の一つである須田国太郎。その代表作《筆石村》(SM)は見るものを内なる世界へと誘います。その特徴はレンブラント《三本の木》(SM)の静かな画面にも共通するといえるでしょう。さらにルドン《ダンテとベアトリーチェ》(UM)が文学の世界へと導きます。ロダン《考

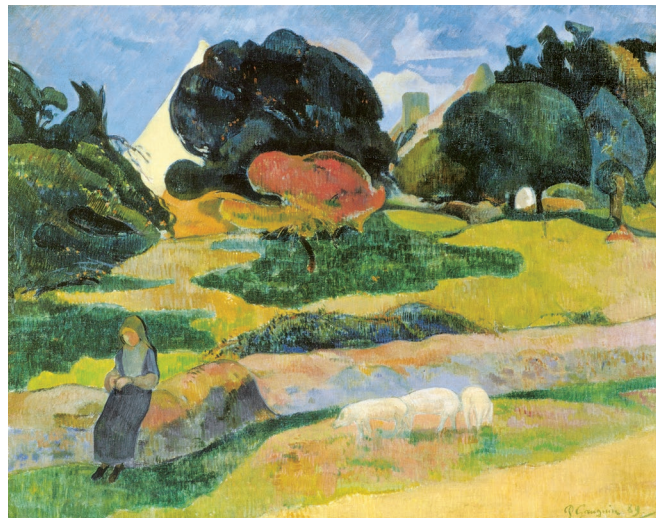


fig.4 ポール・ゴーギャン《家畜番の少女》1889年 静岡県立美術館蔵

える人》(SM)は同じダンテ『神曲』に登場する地獄の門を飾るモチーフの一つです。内省的なルドン《読書の女》(UM)と、平安時代《古今和歌集巻第一断簡(亀山切)》(SM)の仮名文字は、時代も場所も異なりますが、文字を通じて揺れ動く心が響き合います。ゴッホの初期作品《鎌で刈る人(ミレーによる)》(UM)と、彼が憧れたミレーの版画との競演は、わずか10年に過ぎないゴッホ芸術の源泉へと遡る旅のようです。

第3展示室では、岡鹿之助や香月泰男の花の絵画を、平安時代の写経や興福寺千体観音に献花するように展示します。写経を彩る宝相華文(ほうそうげもん)は速水御舟《芍薬図》(SM)と不思議な呼応を見せます。旅の最後には、上原コレクションのはじまりであるドランの小品《裸婦》(UM)に辿りつきます。



fig.3 オーギュスト・ルノワール《アルジャントウイユの橋》1873年 上原美術館蔵



fig.5 オーギュスト・ロダン《永遠の休息の精》のトルソ 1899年以降? 静岡県立美術館蔵